

Japanese Working Class Artist ~ RYO KANZYU



短い物語P&D

土に還る／今日の行方



ORIGINAL
SINGLE

僕は悩み考える。

選択できない未来。

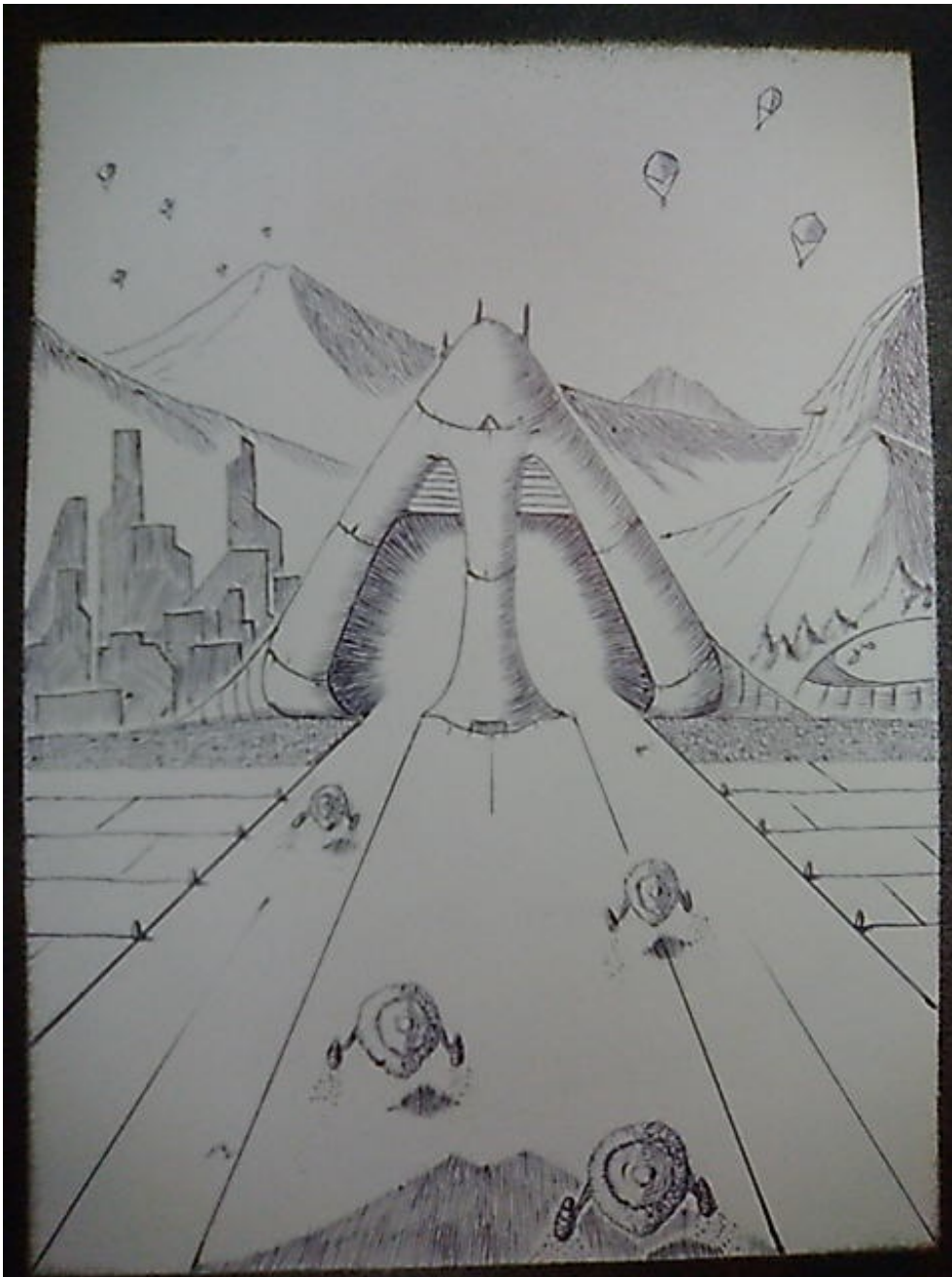
花となって咲くのもいいと思う。

けれど、僕は大地に降りたいと思っている。

羽根はなくても、僕たちは遠くへ運ばれる運命だから。

遺伝子がそうしなさいって言うてるみたい。

アイツらは、咲き誇ろうと必死だけど。



最近はどこもかしこも落ち着きが無い。

風も迷っている。

降りてもすぐにテイクオフ。

いったいどこへ運んでくれるのか。

旅する鳥や、運び屋の虫はいつも忙しい。

言葉を交わすことはないけれど、お疲れ様。

お忙しいところ悪いけど、僕をそろそろ運んでほしい。

あなたたちが頼り。

どこへいっても固く覆われていてダメになった世界。

それでも僕は諦めない。

人の邪魔をするつもりはないから。

悪役のまま終わるつもりなんてないんだ。

なんとか土に降り立って、また戻って来てみせる。

だから僕は、安息の地をきっと見つける。 ～終わり

~~~~~  
【画】

■タイトル(Title)：『土に還る』

■作家名(Artist)：環樹涼(RYO KANZYU)

■制作年：2008

■技法：ボールペン

■作品サイズ(縦×横)：B5サイズ相当の画用紙を使用。

縦19cm × 横14cmの枠内に描画。

## 『今日の行方』（1 / 1）

僕の仕事帰りは、もう長いこと朝。

今朝もいつもと変わらぬ帰り道。

いつものように喉が渴いた。

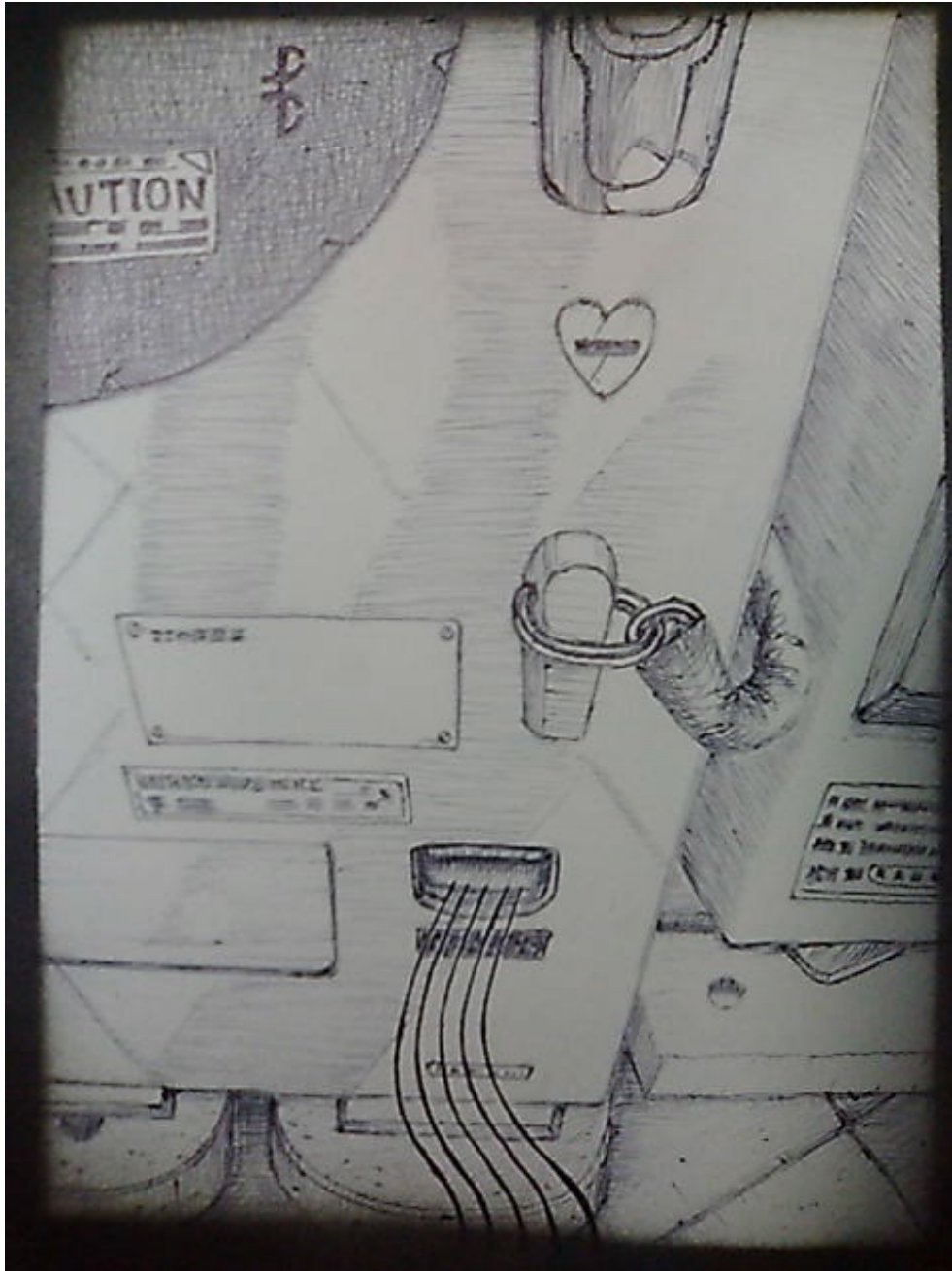
都会のオアシスのような自動販売機が手招きしている。

小銭を手放すことにためらいのない僕は、ポケットの中に幾らあるかなんて確認していない。

だから右手は直ぐに投入口へ伸び、親指の腹で百円と五十円を押し出す。

二枚を送り出して選ぶのはいつものヤツ。

僕は人さし指を折り曲げ、第二関節の山でボタンを押した。



まだ静かな朝に響く小さめの騒音。

落ちてきたヤツは後に回し、先に釣り銭のレバーを下げた。

すると、いつもと違う音がした。

僕は取り出し口を見た。

なぜか蓋が無かった。

初めてだ。

外されたのか、外れてしまったのか。

無防備に開いた小さな口。そこに釣り銭の姿は無かった。

もしかして外へ飛び出してしまったのだろうか。

見たところ路上には何も落ちてない。

僕は自販機の向かい側にある花壇を覗いた。

飛び込んだとしたらここだろう。

朝露の滴で袖を濡らしながら枝葉をかき分けて探した。

なんとなくせこい気もしたが、見つけ出したかった。

そして、しばらく探した後、別の物に出くわした。

遭遇したのは、四葉のクローバー。

僕は素直に嬉しくなった。新聞の運勢欄を今日は読んでやろうと思った。

それからクローバーを持って帰るために摘み取ろうとした。

その時だった。

更なる発見が続いた。

クローバーが密集している一面に目立つ黄色。

顔を近づけてみると、それはギターのピックだった。僕には見覚えがあった。

だいぶ前に行方を見失った一枚。

どこにいったのか分からないまま数ヶ月。

探そうともしなかった。

ピックはまだ劣化していない。

僕はそれを拾い上げた。

すると、聴き慣れない音楽が流れ始めた。

背中の方から賑やかに呼び掛けてくる。

その音は自販機が奏でていた。

どうやら当たったらしい。でも今頃？。

僕は少し慌てながら、さっきと同じヤツを選んだ。

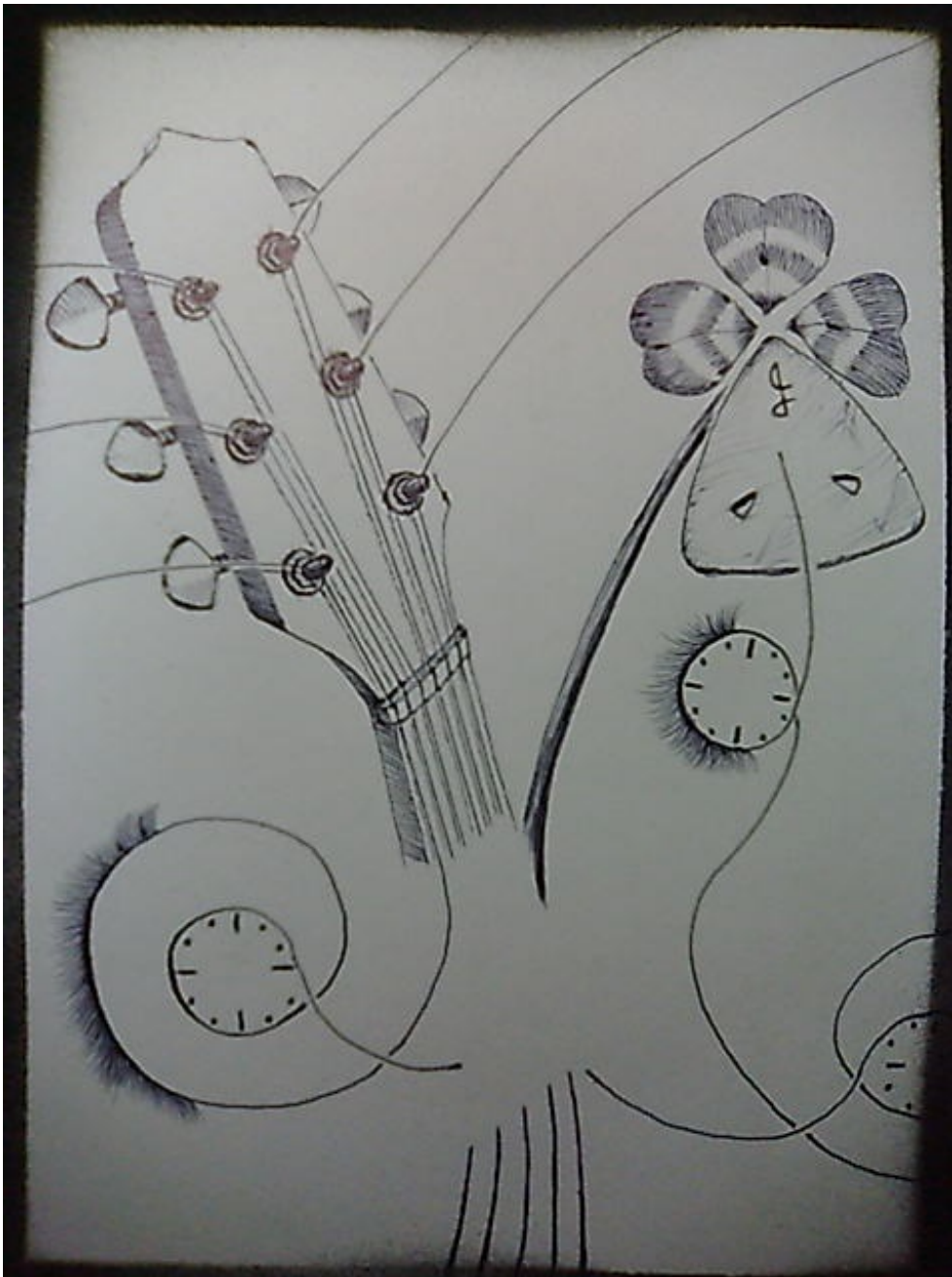
そして放置していたヤツと二本取り出そうとした時、今度はお釣りが出て来る音がした。

まさか。

蓋の無い取り出し口を覗くと、十円硬貨が三枚。

途中で引っ掛かっていたのだろうか。

それが今になって落ちて来たということか。



硬貨を掴み出しながら、僕はクローバーの葉を思い浮かべていた。  
三枚の硬貨と一枚のピックで四つの葉。  
それから考えたことがある。

もう一度、ギターの練習をしてみよう。

今日の僕が行くべき方向。  
それが決まった瞬間だ。 ～終わり